

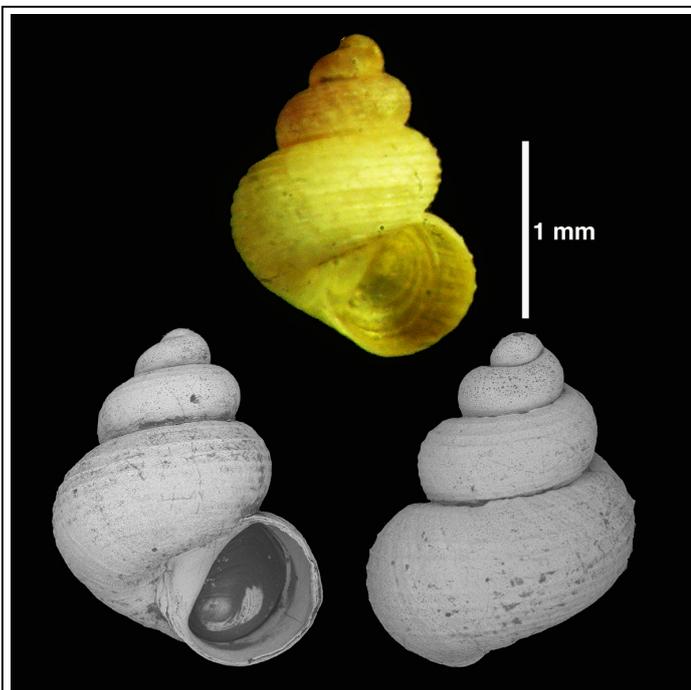
ゴマオカタニシ *Georissa japonica* Pilsbry

【選定理由】

愛知県下では、新城市 (旧・鳳来町) 門谷で、ごく僅かな個体が確認されたのみであった。しかし、その後の調査により、香嵐溪付近 (豊田市足助地区) や矢作川河畔林 (豊田市旭地区) の狭い地域に限られるが、多数の個体からなる、安定した個体群が確認された (川瀬・村瀬, 2011; 川瀬・他, 2012)。愛知県下では、分布域が狭く稀少な種である。現時点では愛知県下の個体群に明確な減少傾向は認められていないが、全国的にも絶滅が危惧される種であり、県下での生息地も局地的である。そのため、生息地域の人的改変行為がある場合には本種の生存への影響が大きく、愛知県下では、将来的に絶滅の危険性を考慮すべき種と判断される。

【形態】

成貝は、殻長 1.8 mm、殻径 1.4 mm 程度のタニシ形の微小種である。殻はやや厚く、各螺層には細く明瞭な螺肋を有する。蓋は半円形の石灰質で内面に 1 本の小突起を有する。殻の色彩は淡紅色であるが、老成すると殻表が浸食され磨耗し、白色に近い色彩となる。近似種のベニゴマオカタニシ (583 頁参照) の殻表は、本種より若干赤味が強く、多数のきわめて繊細な螺条彫刻になるので特徴が異なる。



豊田市足助町香嵐溪, 2017 年 3 月 4 日, 早瀬善正採集

【分布の概要】

【県内の分布】

新城市 (旧・鳳来町) 門谷や豊田市での生息記録が知られる (川瀬・村瀬, 2011; 川瀬・他, 2012)。

【世界および国内の分布】

韓国のほか、本州 (関東) から八重山諸島に広く分布する種とされていたが、遺伝子解析により、少なくとも 3 種が含まれ、沖縄の個体群は九州、四国、本州の個体群とは異なるとされた (狩野・福森, 2016)。現状では愛知県の個体と同種になる個体群の分布状況は明らかではないが、広く見ても本州、四国、九州に分布が限定される可能性が高い。

【生息地の環境／生態的特性】

愛知県内での本種の確認地の環境は、低山地の自然林やそれに隣接したスギ植林地の林床である。落葉堆積下のリター層や礫間に付着する個体が確認された。同所に多数の個体が生息する機会が多いが、本州の生息地の多くは、狭い範囲に限られる。愛知県の個体群の生息範囲がきわめて局地的である理由は、過去に鳥などに運ばれた個体が定着し、主産地から分散した可能性が推測される。

【現在の生息状況／減少の要因】

現時点の愛知県内では、減少傾向が確認されていないが、生息場所は狭い地域であり、環境の悪化や開発行為などがあれば直ちに個体群消滅につながる。

【保全上の留意点】

現在、本種の生息が確認される地域の自然環境を維持することが重要である。本種の生息する、限られた環境を開発しないことが最も重要である。

【特記事項】

これまで本種とされていた個体群には、隠蔽種や遺伝的に多様な地域個体群を内包する可能性が高いことが明らかとなった (狩野・福森, 2016)。したがって、従来の本種の概念よりも狭い範囲に分布が限られる種の可能性が高く、愛知県下の個体群の存在は重要であり、保護する必要がある。

【引用文献】

- 狩野泰則・福森啓晶, 2016. ゴマオカタニシ類の進化と邦産種の多様性, 日本貝類学会平成 28 年度大会 (習志野) 研究発表要旨集, p.39. 日本貝類学会, 東京.  
川瀬基弘・村瀬文好, 2011. 豊田市足助地区に生息するゴマオカタニシ, かきつばた, (36): 57.  
川瀬基弘・村瀬文好・早瀬善正・市原 俊, 2012. 矢作川上中流域の河畔林に生息する陸産貝類, 矢作川研究, (16): 11-26.

【関連文献】

- 環境省自然環境局野生生物課希少種保全推進室(編), 2014. レッドデータブック 2014 - 日本の絶滅のおそれのある野生生物 - 6 貝類, 図録 8 + xliii + 455pp. ぎょうせい, 東京.  
早瀬善正, 2017. 沖縄島のゴマオカタニシ, p.650. in: 沖縄県環境部自然保護課(編), 改訂 - 沖縄島の絶滅のおそれのある野生生物 第 3 版 (動物編) - レッドデータおきなわ -, 712 pp. 沖縄県環境部自然保護課, 那覇.

(早瀬善正)